

平成28年度

研究紀要

第30号

川崎市総合教育センター

はじめに

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきております。そのような中、川崎市総合教育センターは、各学校の教育活動のさらなる充実に向けた支援や、教職員の資質・授業力の向上、教育の情報化、特別支援教育や教育相談の相談体制確立などの役割を担っております。

今年度、当センターは創立30周年を迎えました。この節目にあたり、これまでの取組を振り返るとともに、これから求められる研究の在り方について検討してまいりました。ここ数年の当センターの研究では、研究主題に「生きる力をはぐくむ」「社会を生き抜く力を育てる」「社会を生き抜く資質・能力を育てる」などの言葉を掲げ、時代の要請に合わせて、川崎の子どもたちに付けたい力を明らかにして研究に取り組んでまいりました。

そこで、学習指導要領改訂の方向性や平成27年度からスタートしました第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」、これまでの当センターの研究等を踏まえ、平成28年度は実践研究主題を「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」と設定し、「実践研究」「調査・基礎研究」「各研究所等との共同研究」「施策研究」を進めてまいりました。「実践研究」では、図画工作・美術科、主権者教育、特別支援教育の3つの研究会議に長期研究員を各1名、中学校のカウンセラー研究員を1名配置するとともに、指導主事と研究員による研究会議を6つ設置し研究を進めてまいりました。また「調査・基礎研究」では、各室の指導主事が教育活動及び児童生徒に係る調査研究を進めてまいりました。

ここに、平成28年度に終結した各研究会議の研究内容を、研究紀要30号としてまとめることができました。この研究紀要が、これからの皆様の授業等のさらなる充実や改善に少しでも役立つことができれば幸いです。また本研究に関して、ぜひ、忌憚のないご意見ならびにご指導をいただければ、なお幸いに存じます。

最後になりましたが、それぞれの研究に対しまして、ご指導ご助言いただきました川崎市総合教育センター専門員の方々をはじめ、お力添えいただきました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

2017年3月

川崎市総合教育センター
所長 芹澤成司

目 次

川崎市総合教育センターの研究の推進 P1

教育相談センター指導主事研究

「すべての子どもたちの「登校支援」のために

ー適切なアセスメントを通じたチーム支援を目指してー」 P5

主権者教育研究会議

「集団や社会への関心と、その一員としての自覚を育む主権者教育」 P13

特別支援教育研究会議

「通常の学級における読み書きが困難な児童生徒の学びを保障する学習方法を探る

ー学習上のバリアを考えることを通してー」 P37

図画工作・美術科研究会議

「創造性豊かに自己の価値を見いだす子どもの育成

ーかかわり合いの中で自己を見つめる活動を通してー」 P61

特別活動研究会議

「自己を生かし、豊かな学級・学校生活をつくっていく特別活動

ー「キャリア在り方生き方教育」へつなげる、

自分づくり・仲間づくり・生活づくりを目指した実践研究ー」 P85

外国語教育研究会議

「小中の外国語教育を円滑に接続する文字指導の工夫」 P93

道徳研究会議

「児童生徒の道徳性を育むための問題解決的な学習の工夫」 P101

健康教育研究会議

「健康に関するセルフケア能力の向上をめざした保健指導－けがの防止と対処－」 P107

高校教育研究会議

「生徒が主体的に取り組みたくなる授業実践」 P113

情報教育研究会議

「受け手を意識した伝え方を考える授業づくり－資料を選択する学習活動を通して－」 P119

カウンセラー研究員による研究

「共感的理解の視点を持った生徒との関わり－日頃の教師の関わり方を振り返る－」 P125